

就職先アンケート調査による本学の 栄養士養成教育に関する一考察

山下由美子・村田美穂子・岡田 正浩・白砂千登勢
江坂美佐子・藤井 宏融・水井富美恵

Study on Evaluation of Dietitian Education at Hiroshima Bunka Gakuen Two-Year College by Employers of Graduates

Yumiko YAMASHITA, Mihoko MURATA, Masahiro OKADA, Chitose SHIRASAGO,
Misako ESAKA, Kohyu FUJII and Fumie MIZUI

Key words : 短期大学 Junior college, 卒業生 Graduates, 栄養士 Dietitian, 管理栄養士 Registered dietitian
就業先 Employer, アンケート調査 Questionnaire survey

緒 言

広島文化学園短期大学（以下本学とする）食物栄養学科では、昭和42（1967）年の学科開設以来多くの栄養士を養成してきた。平成23年4月には第45期生が入学しており、卒業後に管理栄養士免許を取得したいと考えている学生が多数存在する。また、著者らは前報¹⁾の卒業生を対象としたアンケート調査において、専門職として就業している卒業生の多くが専門性を高めるために管理栄養士免許取得を考えたことがあるにも関わらず何らかの理由で受験を断念していたことを報告した。短期大学における栄養士養成教育は在学中の教育研究支援のみでなく、卒業教育をも含めた幅広い支援体制が必要であることを実感し、卒業生対象の「管理栄養士国家試験対策講座」を開設するきっかけとなった。

本学食物栄養学科の学生が管理栄養士国家試験の受験資格を得るには、管理栄養士養成施設へ編入学するか、または栄養士としての実務経験が認められる企業等へ3年間以上（本学専攻科栄養専攻修了生は1年間以上）勤務することが必須条件となる。本学食物栄養学科では編入学を目指す学生は毎年数名以下で、ほとんどの学生は卒業後に就職をしている¹⁾。卒業生が専門職で勤務する企業の一部には食物栄養学科の専任教員が毎年訪問しており、卒業生の状況を通して学科の教育内容等への評価を得ている。また、校外実習期間には実習先を訪問し、学科の教育研究内容への意見や評価を得る機会としている。

学校教育法が改正され、文部科学大臣が認証した認証評価機関による「第三者評価」が平成16（2004）年4月

に全ての大学に義務付けられた。本学は平成17年度に自己点検・評価報告書²⁾に基づいて（財）短期大学基準協会による第三者評価を受審し適格認定を受けている。また、多くの大学が教育目標の達成度および教育効果の自己点検・評価の一つとして、卒業生の就職先を対象とした大学教育についての外部評価を実施している^{3,4)}。このような状況を踏まえ、本学食物栄養学科においても、卒業生が就業している多数の企業による外部評価を実施することとした。

本報では、本学の食物栄養学科および専攻科栄養専攻の学生への新たな支援体制の構築とカリキュラム編成等の改善並びに教育研究の充実を目的とし、卒業生が専門職で就職した企業を対象に平成23年度に実施したアンケート調査について報告する。

方 法

1. 調査対象

平成17年度から平成22年度までの6年間に、本学食物栄養学科卒業生が栄養士の資格を活かして就職している主な企業92社を調査対象とした。

2. 調査時期

調査は平成23年9月10日から9月30日に実施した。

3. 調査方法と調査内容

調査方法は、自作の質問紙を企業の人事担当者宛に郵送し、留め置き法による自記式調査とした。調査の目的と個人情報の保護を明記した調査依頼書、調査用紙、返

信用封筒を同封した。記入項目は基礎項目および調査項目とした。

基礎項目は、事業内容、総従業員数、企業全体で在職している栄養士・管理栄養士・調理員等の人数および本学食物栄養学科の卒業生で在職している栄養士・管理栄養士・調理員等の人数とした。

調査項目は、企業等が短期大学の学生を栄養士・調理員等として採用するとき重要視するであろうと考えられた12項目についての重要度（5段階評価）、また本学食物栄養学科卒業生に対する11項目についてのイメージ（5段階評価）および本学食物栄養学科に対して充実を望む教育内容（3項目までの複数回答）等とした。さらに、2項目についての自由記述欄（2年制栄養士養成施設の卒業生と管理栄養士養成施設の卒業生に対して感じていることを記述する欄および本学食物栄養学科への意見・要望等を記述する欄）を設けた。

結果および考察

調査対象92社のうち31社から回答が得られた（回収率33.7%）。31社の事業内容は、医療施設8社、福祉施設14社、委託給食施設4社、食品製造施設3社、スポーツサービス施設1社、食料品小売業1社であった。

1. 卒業時の就職状況

平成17年度から平成22年度までの6年間の本学食物栄養学科卒業生の卒業時の就職者数を図1に示した。

就職者数は19年度卒業で最も多く46名（86.8%）、最も少ないのは20年度卒業で31名（72.1%）であったが、この20年度は例年の約2倍の9名が進学した。各年度の進学者数については前報¹⁾で報告している。就職の職種別割合を見ると、専門職への就職率（栄養士および調理員などの食関係への就職率）が最も高いのは18年度卒業の88.9%（32名）で、最も低いのは19年度卒業の76.1%

（35名）であった。

全国の栄養士課程及び管理栄養士課程卒業生の就職実態調査結果⁵⁾から作成した栄養士業務就職者数を表1に示した。平成22年度管理栄養士課程（111校）の卒業生8,770名、就職者7,154名、栄養士業務就職者5,162名（就職者に占める割合72.2%）、短期大学（108校）の卒業生6,964名、就職者3,426名、栄養士業務就職者3,426名（就職者に占める割合63.9%）となっている。本学食物栄養学科では、平成17年度から平成22年度までの6年間の就職者総数221名に占める専門職就職者総数は178名（80.5%）であり、専門職への就職率が高いことは本学食物栄養学科の特徴の一つと考えられる。

2. 栄養士・調理員等の採用時に企業が重視する内容

「短期大学の学生を栄養士・調理員等として採用される時、次の項目をどの程度重視されますか」という設問の結果を図2に示した。回答は5段階評価とし、「重視する」「どちらかといえば重視する」「一概にいけない」「どちらかといえば重視しない」「重視しない」とした。この設問には無記入の企業が2社あり、記入29社について集計した。

5段階評価としたとき、50%以上が「重視する」とした項目は、②性格・人柄（24社、82.8%）、①意欲・熱意（21社、72.4%）、⑦責任感・粘り強さ・誠実性（20社、69.0%）、⑧協調性（17社、58.6%）、③礼儀・マナー（16社、55.2%）であり、これらが最も重視される項目であると考えられる。

また、「重視する」「どちらかといえば重視する」を合わせて50%以上を示した項目は、②性格・人柄（29社、100%）、③礼儀・マナー（29社、100%）、⑦責任感・粘り強さ・誠実性（28社、96.6%）、①意欲・熱意（28社、96.6%）、⑧協調性（27社、93.1%）、⑩コミュニケーション能力（26社、89.7%）、⑥理解・判断力（25社、

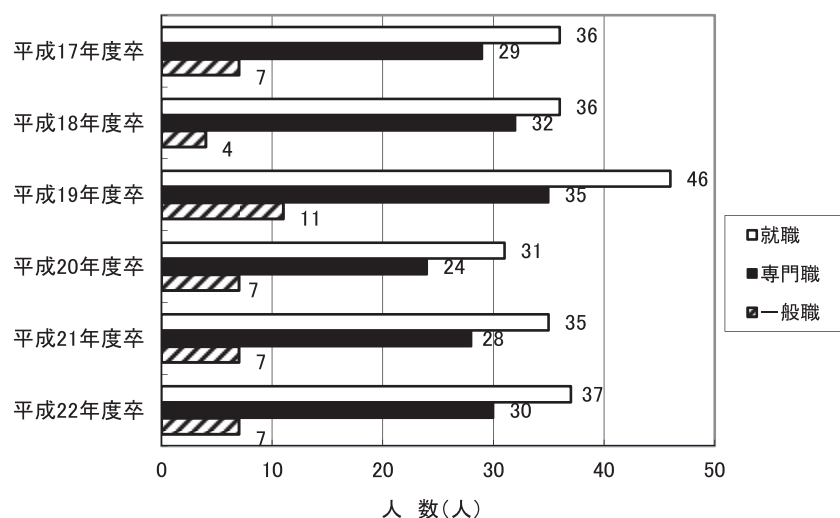


図1 卒業時の就職者数

表1 栄養士課程および管理栄養士課程卒業生の就職状況（全国）

学校種別	年度	卒業生数（名）	就職者数（名）	栄養士業務就職者数（名） （栄養士業務就職者の比率）	その他の業務就職者数（名） （その他の業務就職者の比率）
管理栄養士課程	S 52	1,250	917	482 (52.6%)	435 (47.4%)
	S 55	1,400	1,176	539 (45.8%)	637 (54.2%)
	S 60	1,331	1,149	445 (38.7%)	704 (61.3%)
	S 62	1,223	1,107	432 (39.0%)	675 (61.0%)
	H 4	1,504	1,339	496 (37.0%)	843 (63.0%)
	H 9	1,679	1,370	774 (56.5%)	596 (43.5%)
	H 17	6,122	5,171	3,468 (67.1%)	1,703 (32.9%)
	H 18	7,109	6,097	3,985 (65.4%)	2,112 (34.6%)
	H 19	7,467	6,464	4,117 (63.7%)	2,347 (36.3%)
	H 20	8,148	6,823	4,381 (64.2%)	2,442 (35.8%)
	H 21	8,564	6,897	4,712 (68.3%)	2,185 (31.7%)
	H 22	8,770	7,154	5,162 (72.2%)	1,992 (27.8%)
四年制大学	S 52	980	710	247 (34.8%)	463 (65.2%)
	S 55	1,118	906	207 (22.8%)	699 (77.2%)
	S 60	1,154	977	169 (17.3%)	808 (82.7%)
	S 62	1,363	1,203	167 (13.9%)	1,036 (86.1%)
	H 4	1,528	1,320	229 (17.3%)	1,091 (82.7%)
	H 9	1,723	1,386	453 (32.7%)	933 (67.3%)
	H 17	813	713	319 (44.7%)	394 (55.3%)
	H 18	838	730	237 (32.5%)	493 (67.5%)
	H 19	958	849	280 (33.0%)	569 (67.0%)
	H 20	953	820	255 (31.1%)	565 (68.9%)
	H 21	768	649	220 (33.9%)	429 (66.1%)
	H 22	794	663	295 (44.5%)	368 (55.5%)
短期大学	S 52	11,758	9,809	3,529 (36.0%)	6,280 (64.0%)
	S 55	12,689	10,895	3,570 (32.8%)	7,325 (67.2%)
	S 60	13,709	12,060	3,276 (27.2%)	8,784 (72.8%)
	S 62	13,912	12,519	3,433 (27.4%)	9,086 (72.6%)
	H 4	14,220	12,751	4,020 (31.5%)	8,731 (68.5%)
	H 9	14,810	11,571	4,406 (38.1%)	7,165 (61.9%)
	H 17	9,601	7,536	4,093 (54.3%)	3,443 (45.7%)
	H 18	9,033	7,194	3,859 (53.6%)	3,335 (46.4%)
	H 19	8,592	6,877	3,661 (53.2%)	3,216 (46.8%)
	H 20	8,424	6,546	3,755 (57.4%)	2,791 (42.6%)
	H 21	7,411	5,399	3,436 (63.6%)	1,963 (36.4%)
	H 22	6,964	5,360	3,426 (63.9%)	1,934 (36.1%)

86.2%), ④一般常識・教養 (23社, 79.3%) の8項目であった。50%未満を示したものは, ⑨調理技術 (14社, 48.3%), ⑤大学の成績 (11社, 37.9%), ⑪パソコン操作等の能力 (10社, 34.5%), ⑫通勤時間・距離 (5社, 17.2%) の4項目であった。

「一概にいけない」が多く選ばれた項目は, ⑫通勤時間・距離 (22社, 75.9%), ⑤大学の成績 (15社, 51.7%), ⑨調理技術 (13社, 44.8%), ⑪パソコン操作等の能力 (13社, 44.8%) であった。北海道大学の報告書³⁾では, 企業が在学中に身につけてほしい能力を大学学部別や大学院別に分析している。また幼稚園教諭・保育士・介護福祉士等の職種別に企業が採用試験で重視する項目⁴⁾についての報告もある。法政大学の学生の採用

理由としては文系・理系ともに, 筆記試験の成績や大学の成績などの9項目よりも人柄, 働く意欲, コミュニケーション能力および社風への適合性 (協調性) の4項目が上位を占め, その重視度の高さは興味ある報告⁶⁾である。神戸大学の調査⁷⁾では, 企業が採用に際して最も重視するのは意欲・熱意 (重視する83.3%, まあ重視する12.5%), 次いで性格・人柄 (重視する79.2%, まあ重視する16.7%) であり, 大学の成績は重視4.2%, まあ重視12.5%およびどちらともいえない50.0%などが報告されている。今回の調査でも同様に, 企業の半数 (15社, 51.7%) が大学の成績を重視するとは一概にいけないとし, 1割 (3社, 10.3%) が重視しないとした評価は, 文部科学省が我が国の高等教育の質保証を目的とし, 7

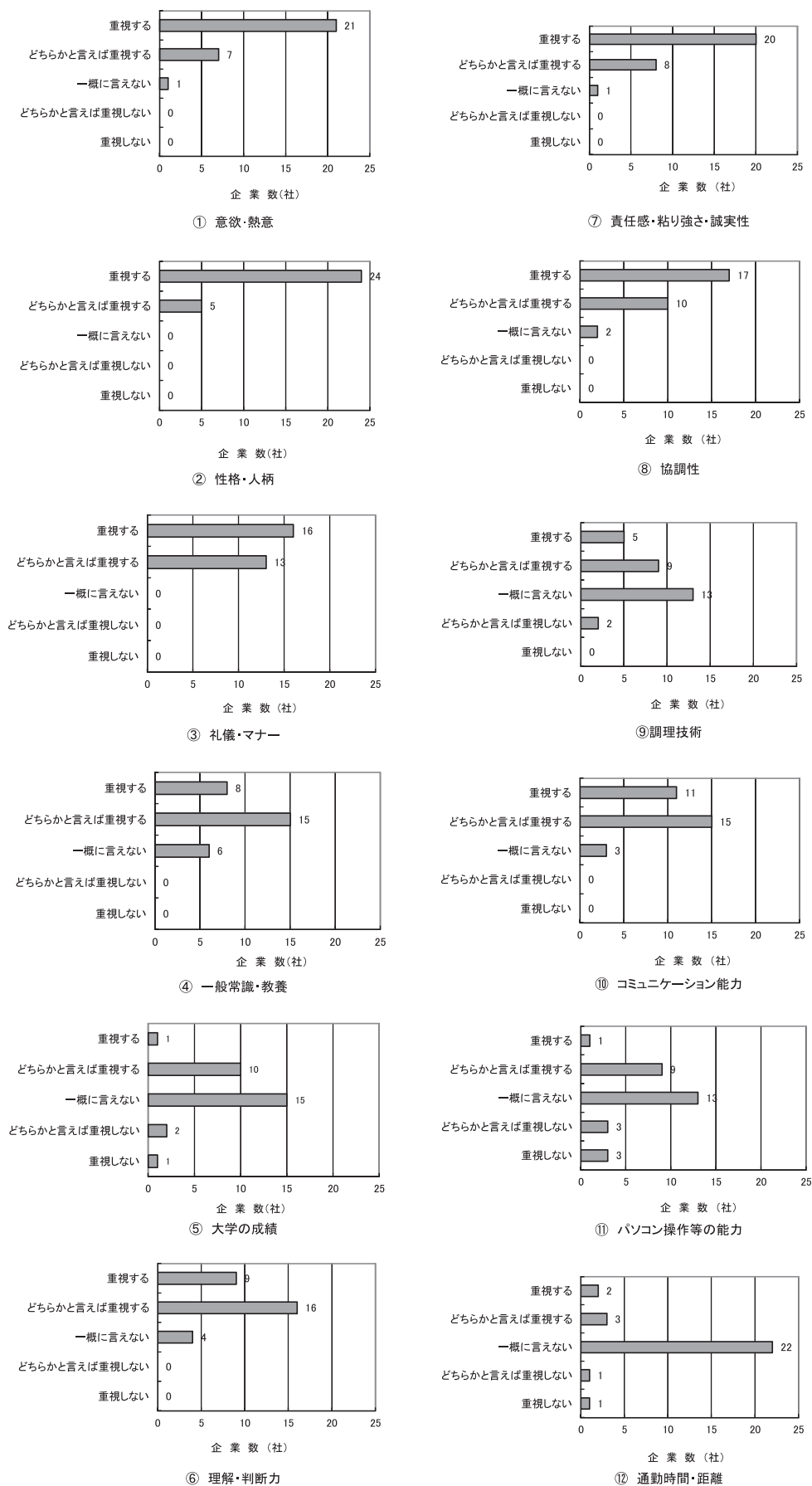


図2 栄養士等の採用時に重視する事柄

年間の期限付きで全大学に第三者評価を義務付けた裏付けの一つとも考えられる。

今回の調査で、企業が短期大学の学生を栄養士・調理員等として採用するときは、大学の成績、調理技術およびパソコン等の能力よりも性格・人柄、礼儀・マナーおよび意欲・熱意を最も重視し、次に責任感・粘り強さ・誠実性、協調性およびコミュニケーション能力などを重視することが確認された。企業が求めるニーズと学生の目標達成を支援するという二面を考えるよい機会となり、今後の教育研究支援のために貴重な資料を得ることができた。

3. 本学食物栄養学科卒業生のイメージ（評価）

「本学食物栄養学科の卒業生については、どのようなイメージをお持ちですか」という設問の結果を表2に示した。回答は5段階評価とし、「優れている」「どちらかといえば優れている」「普通」「どちらかといえば劣る」「劣る」とした。この設問には無記入の企業が6社あり、記入のあった25社（パソコン操作等の能力の1項目は24社）について集計した。

「優れている」「どちらかといえば優れている」を合わせたものが50%以上を示したのは、①意欲・熱意（15社、60.0%）、③礼儀・マナー（15社、60.0%）、②性格・人柄（14社、56.0%）、⑦責任感・粘り強さ・誠実性（13社、52.0%）の4項目であり、これらの項目では企業からの評価が比較的好かったといえる。また、5段階評価で「普通」以上のみに記入の企業が半数以上（16社、55.2%）あったことから、本学食物栄養学科の卒業生はよいイメージで受け止められていると考えられる。しかし、全体的に無難な評価と見られる「普通」のみ（11項目全てが普通）に記入した企業が3社（12.0%）、「普通」

以下にのみ記入した企業も2社（8.0%）あったことから、この5社の記入の各項目の評価については自由記述の内容を含めて今後詳細に検討する必要がある。さらに、25社全体でみると、「劣る」との記入項目が11項目中9項目に見られた。これらについても厳しい評価と受け止め、自由記述から得られた課題とともにこれからの課題としていきたい。

回答の中には11項目全てに「優れている」という最上位の評価（1社）があり、自由記述には「採用した職員は大変優秀で喜んでおります」と記されていた。また、ほとんどの項目で「劣る・どちらかといえば劣る」（自由記述ではキャリア教育不足、時間的配慮ができない、常識的な調理技術がとても不足している、などが記されている）という評価もあり、就業している卒業生一人ひとりに対する評価とも考えられた。

4. 就職先企業が本学食物栄養学科に充実を望む事項

「本学の食物栄養学科として充実が望まれる事項を3つまで選んでください」という設問の結果を図3に示した。この設問には無記入の企業が2社あり、記入のあった29社について集計した。充実を望む事項としては、「調理技術・献立作成力」21社（72.4%）、「幅広い基礎的学力」20社（69.0%）、「幅広い教養」10社（34.5%）の選択があり、この3項目が他の6項目（深い専門的学力、ボランティア活動、地域貢献活動など）に比べ特に要望が高かった。中でも「調理技術・献立作成力」が充実を望む事項のトップであることは、本学食物栄養学科において、以前より実施している調理技術向上を目指した取り組みの重要性を裏付ける結果となった。この調査結果を受けて、平成23年度入学生に対しては調理技術向上支援を従来よりもさらに強化し2年次を実施する校外実習に備え

表2 本学食物栄養学科卒業生のイメージ（評価）

（社）

項 目	優れている	どちらかといえば優れている	普通	どちらかといえば劣る	劣る
① 意欲・熱意	6	9	9	1	0
② 性格・人柄	7	7	11	0	0
③ 礼儀・マナー	3	12	8	2	0
④ 一般常識・教養	2	9	12	1	1
⑤ 大学の成績	3	8	13	1	0
⑥ 理解・判断力	3	8	11	2	1
⑦ 責任感・粘り強さ・誠実性	4	9	10	2	0
⑧ 協調性	5	7	13	0	0
⑨ 調理技術	3	8	11	3	0
⑩ コミュニケーション能力	1	9	12	2	1
⑪ パソコン操作等の能力	1	6	16	1	0

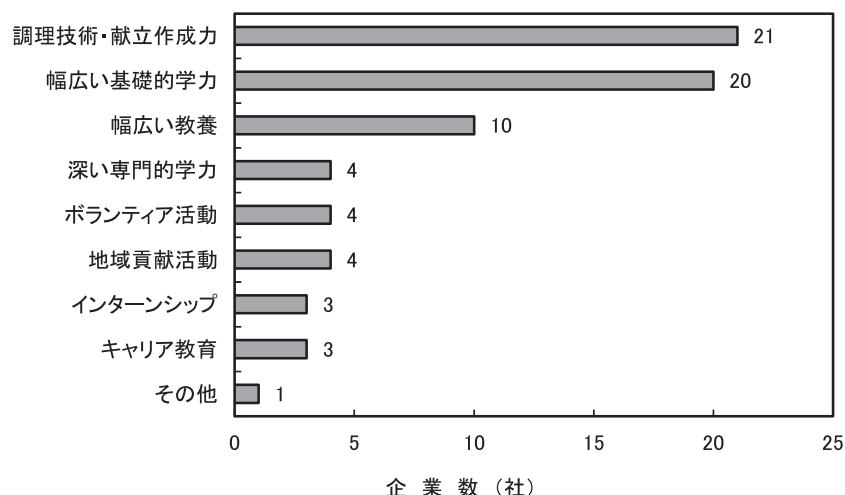


図3 本学の食物栄養学科に望む充実事項

ることとした。献立作成力の強化については、どのような方法でいつ実施するか今後の検討課題としたい。

また、学力については、「深い専門的学力」よりも「幅広い基礎的学力」の充実がより望まれる結果となった。この選択肢は、本学が短期大学であることから選ばれたものと捉えると、図2に示した結果（本学食物栄養学科の学生を企業が採用するときに重視される項目）とよく合致している。

さらに、今回の調査でボランティア活動や地域貢献活動の選択が少ない要因の一つとして認知度の低さが考えられる。企業の回答（自由記述）に「ホームページを見させて頂き、色々な活動をされているのだと感じています。地域の方と一緒にやっているイベントやセミナーなどとても興味を持って拝見しました」との記述があったことから、今回の調査によって初めて学科が行っている教育研究活動の内容を知った企業もあるのではないかと考えられる。その他に選択数を3つに限定したことなども少なかった要因として考えられる。

今回の調査は、栄養士・調理員等を採用されている多くの企業に、本学食物栄養学科の教育研究活動を理解していただくよい機会となった。今後、学生の専門職への就職に活かされることを期待している。

5. 2年制栄養士養成施設および4年制管理栄養士養成施設の各卒業生に対して感じること（自由記述）

企業23社から自由記述が寄せられた。どの記述からも極めて貴重な意見が得られたが、代表的なものを5つ挙げる。

- ・2年制であっても4年制であっても、入職後のスキルの部分では、大きな違いは感じられない。
- ・短期大学卒業生は、カリキュラム上難しいのかもしれないが、サークル・バイト等の経験が少なく、社会性が低い印象を受けることがある。
- ・2年制で栄養士を取得し、実務経験をした上で国試

を受験し、管理栄養士になった人は、実際の現場を見てきているので、調理員さんとの意思疎通もスムーズにできるようになっているのではないかと感じる部分もあります。2年制、4年制とも大切な養成施設だと思っています。

- ・差がでていていると思います。
- ・4大卒の方は、自分の考えをしっかりと持っていて、落ち着きのある行動がとれ、2～3年後には部署での活躍が期待できます。短大卒の方は、まだどこかにあどけなさが残っていて、仕事の面と精神的な面のサポートが必要になっています。

6. 本学食物栄養学科への意見・要望等（自由記述）

企業20社から自由記述が寄せられた。どの記述も極めて貴重な意見であったが、代表的なものを5つ挙げる。

- ・基礎学力、基礎的調理技術、社会体験の奨励を重視していただきたい。
- ・現在では、管理栄養士でないとなかなか栄養士業務へ携わることが難しい時代になっていますので、短大でも受験勉強への対策の強化があればよいと思います。
- ・基礎的学力・知識が備わっている人材が、実践で力をつけながら能力を発揮してくださるような思います。
- ・時間的に少ないと思われるが、できる限りの技術を学べる方法を考えていただきたい。即実践力となり得る為にも!!
- ・現場が好きであること（利用者さんと接することが好きであること、調理現場が好きであること）を第一にしております。現場の素晴らしさを学問の場で学ぶことはなかなか難しいと思いますが、ご検討いただければ幸いです。コミュニケーション能力等の基礎態度をしっかり身につけてほしいと思っています。

この調査から、本学食物栄養学科卒業生を採用した実績のある企業が採用時に重視している項目や2年制栄養士養成施設について感じていること、さらに本学食物栄養学科に望む重要事項について知ることができた。

今後はこの結果を踏まえ、日本私立短期大学協会が示す「短期大学士課程教育」構築の基本方向⁸⁾にある短期大学が得意とする分野として、2年制栄養士養成施設の特徴を生かしつつ、短期大学士並びに栄養士の質を保証するため、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいたカリキュラムの改善に努めたい。また本学においては「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を学習到達目標とする「学習成果」と科目ごとにどのような学習成果が得られるかをまとめた「カリキュラムマップ」を作成していることから、これらを有効に活用することで学生の学習意欲向上をめざしたい。さらに、在学中だけでなく卒業後も含めた計画的な支援を実施することで、より社会に求められる質の高い栄養士の育成をめざしていきたい。

要 約

本学の食物栄養学科および専攻科栄養専攻の学生への教育研究支援とカリキュラム編成等の改善並びに教育研究の充実を目的として、卒業生が専門職として就職した企業92社を対象にアンケート調査を実施し、31社から回答が得られた（回収率33.7%）。

企業が短期大学の学生を栄養士・調理員等として採用するときに最も重視するのは、性格・人柄、礼儀・マナーおよび意欲・熱意であり、次に重視するのは、責任感・粘り強さ・誠実性、協調性およびコミュニケーション能力であることが確認された。

本学食物栄養学科卒業生に対する就職先からの評価は、意欲・熱意、礼儀・マナー、性格・人柄、責任感・粘り強さ・誠実性の項目で高く、概ね良いイメージで受け止

められていたが、一部に厳しい評価もあり、今後の課題としていきたい。

就職先企業が本学食物栄養学科に最も充実を望むのは、調理技術・献立作成力、幅広い基礎的学力であり、次に幅広い教養であった。今回の調査は、企業に本学食物栄養学科の教育研究活動を理解していただくよい機会となり、今後の就業に役立つものと考えられる。

謝 辞

アンケート調査にご協力いただいた企業の人事担当者様に深く感謝いたします。

文 献

- 1) 山下由美子, 村田美穂子, 岡田正浩, 江坂美佐子, 白砂千登勢, 藤井宏融, 水井富美恵: 栄養士養成教育における卒業後支援についての一考察 (第1報)―広島文化学園短期大学食物栄養学科卒業生へのアンケート調査より―, 広島文化学園短期大学紀要, **43**, 51-58 (2010)
- 2) 広島文化短期大学: 自己点検・評価報告書, 1-120 (2005)
- 3) 北海道大学高等教育機能開発総合センター編: 就職先企業に対する大学教育の成果に関する調査研究―就職先企業に対するアンケート調査結果―報告書, 26-29 (2008)
- 4) 高田短期大学学生支援推進プログラム実行委員会編: キャリアカルテを用いた生涯就職支援システムの構築―就職先および学生の意識調査結果報告―[概要版], 4-9 (2010)
- 5) 社団法人全国栄養士養成施設協会: 平成20, 21, 22年度栄養士課程及び管理栄養士課程卒業生の就職実態調査の結果, 全栄施協月報, **590**, 9-75 (2009), **602**, 7-73 (2010), **614**, 9-75 (2011)
- 6) 法政総長室付大学評価室: 大学評価アンケート (企業・団体等対象) 調査報告, 1-3 (2011)
- 7) 神戸大学発達科学部卒業生動向調査委員会編: 神戸大学発達科学部10年の歩み―卒業生および就職先アンケートより―, 27-28 (2004)
- 8) 日本私立短期大学協会: 短期大学教育の再構築を目指して―新時代の短期大学の役割と機能―, 42-51 (2009)

Summary

The aim of the present study was to improve education research and the curriculum design and to provide education research support to students in the Department of Food and Nutrition and those majoring in Advanced Food and Nutrition at our junior college. A total of 31 responses were received from a questionnaire survey conducted on 92 businesses that employ our graduates as professional dietitians (collection rate, 33.7%).

For businesses employing our graduates as dietitians and cooks, characteristics deemed important in hires included personality and character, etiquette and manners, and motivation and enthusiasm, followed by sense of responsibility, perseverance, integrity, cooperativeness and communication skills.

Graduates of our Department of Food and Nutrition were highly evaluated by employers with regard to motivation and enthusiasm, etiquette and manners, personality and character, sense of responsibility, perseverance and integrity and the overall impression of our students was generally positive; however, there was also some harsh criticism that needs to be addressed.

The main improvements sought by employers to our Department of Food and Nutrition included improvements to cooking skills, menu creation and broad basic knowledge, followed by broad education. The present survey provided businesses with a good opportunity to understand the education research activities of our Department of Food and Nutrition and will hopefully be advantageous for future student employment.